（注７）　浮遊物が多いときは、あらかじめろ過する。ろ過は、メタノールで洗浄したろ過材（孔径１μmのガラス繊維ろ紙）で吸引ろ過し、ろ過材ごとビーカーに移してメタノール約５mlを加え、超音波洗浄器を用いて溶出させ、これを２～３回繰り返し得られた溶出液を全て合わせ、ロータリーエバポレーター、グデルナダニッシュ濃縮器又はスニーダーカラムを用いて約５mlまで濃縮し、試料に加える。

（注８）　水分の残存により乾固できない試料は、約0.3mlまで濃縮して(e)の操作を行う。

（注９）　空試験値は、可能な限り低減化を図る。

４　検量線の作成

検量線標準液５μlをＬＣ／ＭＳ／ＭＳに注入し、各対象物質と内標準物質のピーク面積の比から検量線を作成する。

備考

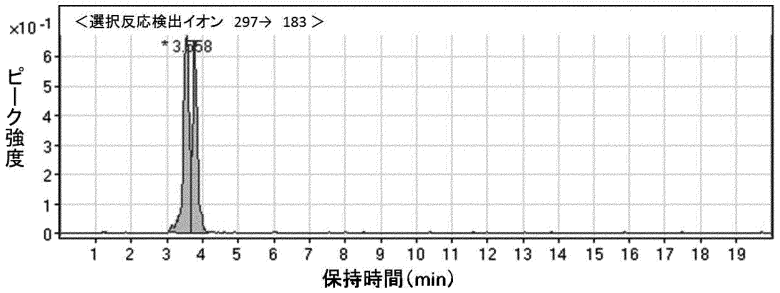
１　この測定方法の定量下限は、ＬＡＳ濃度として0.1μg／Ｌである。

２　ここで示す商品は、この測定法使用者の便宜のために、一般に入手できるものとして例示したが、これらを推奨するものではない。これと同等以上の品質、性能のものを用いてもよい。

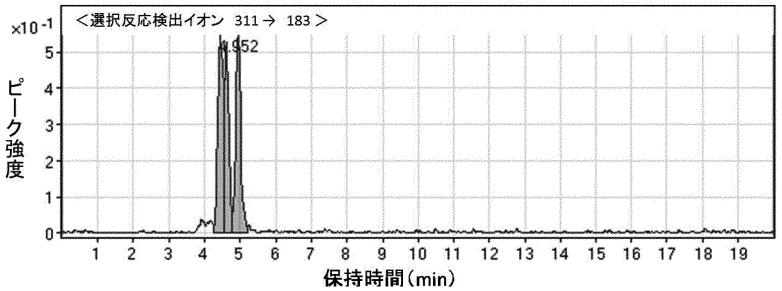
３　この測定方法における用語の定義その他でこの測定方法に定めのない事項については、日本工業規格に定めるところによる。

別図

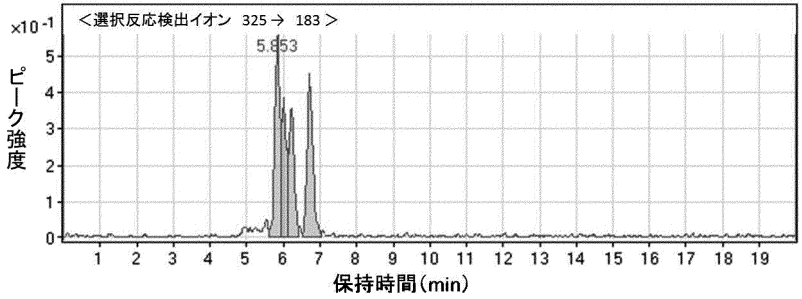
１　C10-LASのクロマトグラム



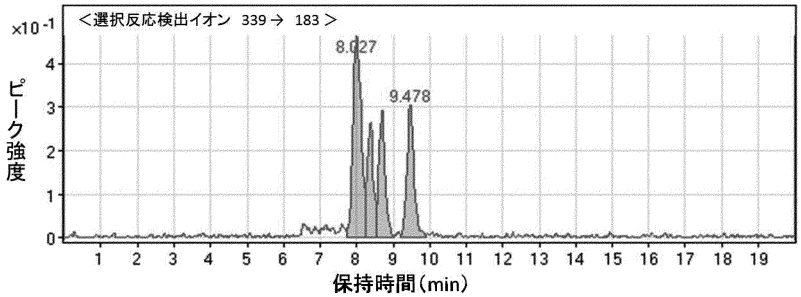
２　C11-LASのクロマトグラム



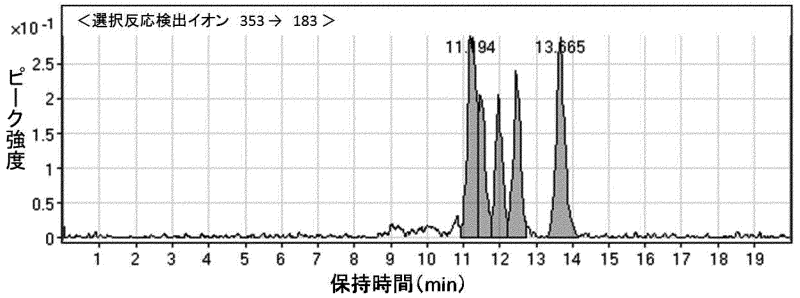
３　C12-LASのクロマトグラム



４　C13-LASのクロマトグラム



５　C14-LASのクロマトグラム



６　C8-LASのクロマトグラム

